

# 酒田商業高校跡地活用基本構想（案）

令和3年 月

酒田市



## 1. 本市の中心市街地の課題と方針

- 1-1. 中心市街地の概要
- 1-2. 人口動態
- 1-3. 商業動態
- 1-4. 観光資源及び観光入込数の状況
- 1-5. 山居倉庫の史跡指定について
- 1-6. 市街地の低未利用地の状況
- 1-7. 新型コロナウイルスによる影響
- 1-8. 中心市街地の課題と今後の方向性

## 2. 商業跡地の概要と方針

- 2-1. 商業跡地の概要
- 2-2. 商業跡地及び周辺の状況
- 2-3. 中心市街地の歴史資源
- 2-4. 上位計画・関連計画
- 2-5. 商業跡地の基本理念・方針

## 3. 商業跡地への導入機能

- 3-1. 導入機能の概要

## 4. 事業スキームとスケジュール

- 4-1. 事業スキーム
- 4-2. 事業スケジュール

## 5. 目指すまちの姿

# 1. 本市の中心市街地の課題と方針

# 1-1. 中心市街地の概要

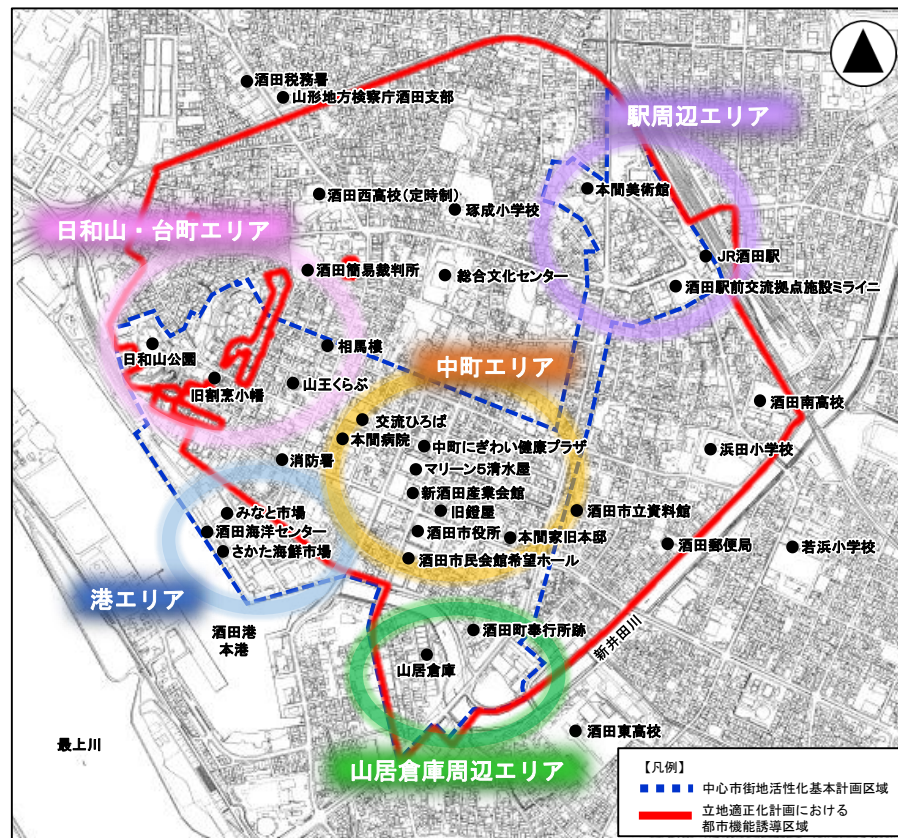
(1) 本市の中心市街地は、新井田川の河口付近から酒田駅に至る範囲を中心に、明治以降に官公庁街として発展し、現在でも公共施設、事業所、医療・福祉施設、教育施設等の都市機能が集積している。

一方で、高度経済成長期以降の急激な車社会の進展や、市街地の拡大、商業集積の多様化により、中心市街地の空洞化が進んでいる。

(2) 本市では、平成12年から市独自、平成21年から国認定の中心市街地活性化基本計画を策定し、中町エリア、港エリア、駅周辺エリア、日和山・台町エリア、山居倉庫周辺エリアの5つのエリアを拠点として、各エリア毎の特色を強化し、回遊性を向上させる取り組みを行ってきた。

(3) 中心市街地活性化基本計画の計画期間は令和3年3月で終了するが、今後は、令和元年7月に公表した立地適正化計画に基づき、これまで形成してきた市街地を維持し、都市機能の適正な立地と周辺への居住誘導を促進することで、人口減少が進む中でも活力があり、住みやすい・住み続けられる都市づくりの実現を目指していく。

なお、港エリアについては、津波浸水想定区域に該当するため、都市機能誘導区域からは除外しているが、さかた海鮮市場やみなと市場等が立地する観光・交流拠点として、これまでと同様、連携を図っていく。

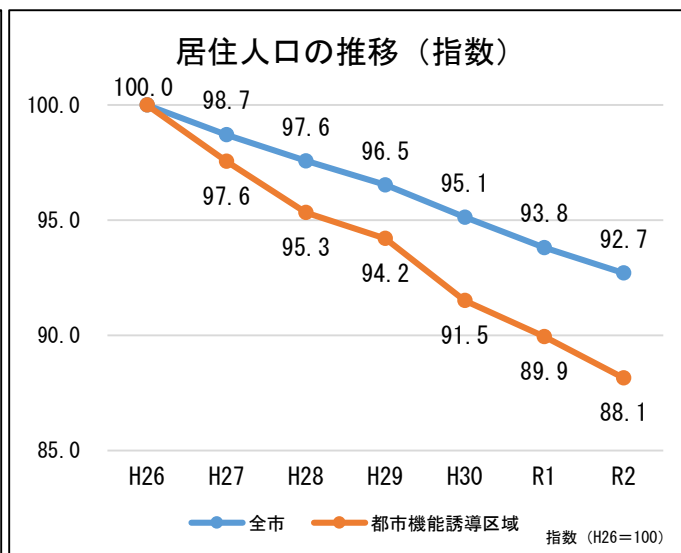
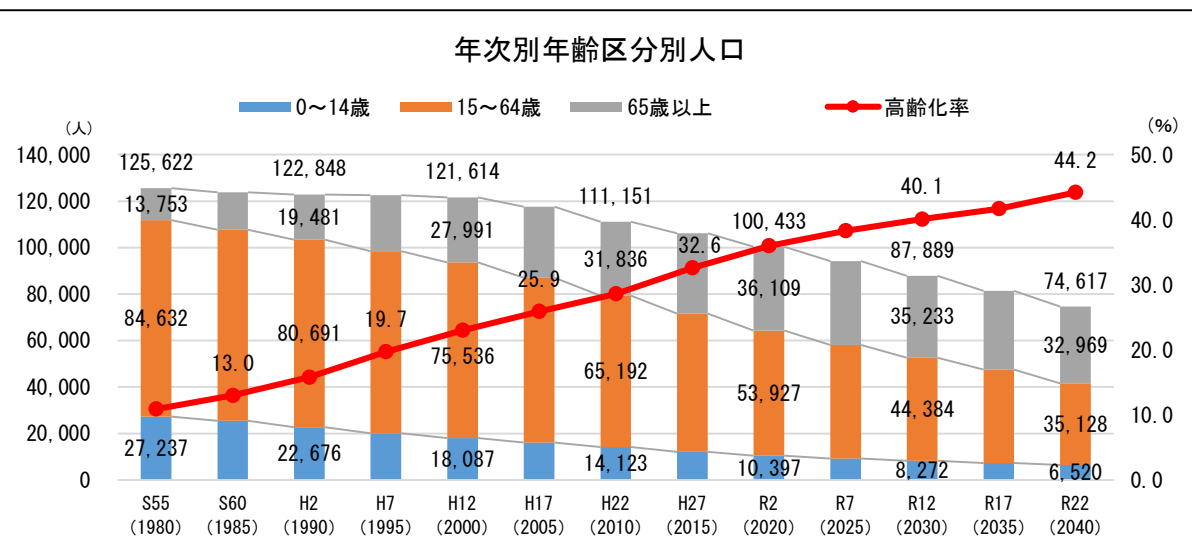


# 1-2. 人口動態

- (1) 本市の総人口は減少傾向にあり、昭和55年の125,622人<sup>※1</sup>から令和2年には100,433人<sup>※2</sup>となり、40年間で25,189人の減少となった。
- (2) 国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）の「日本の地域別将来推計人口」によると、令和22年には総人口が74,617人まで減少し、高齢化率も44.2%になると予想されている。
- (3) 特に中心市街地では、居住人口の減少が市全体に比べて進行しており、人口減少の速度を緩やかにすることが求められている。

※1 旧1市3町を合算した値

※2 令和2年9月末時点住民基本台帳データ

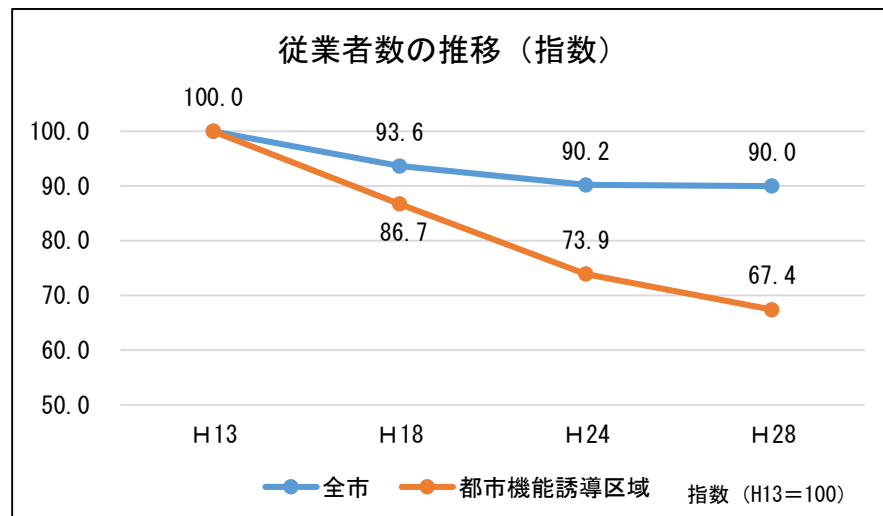
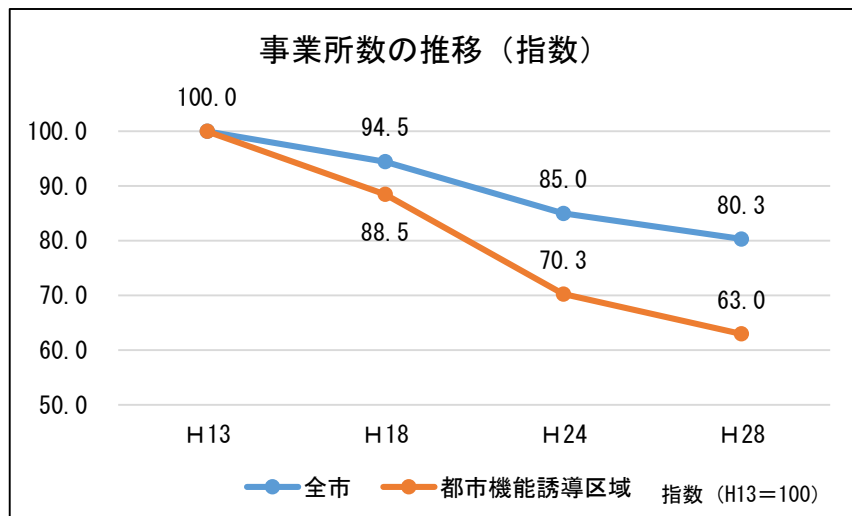
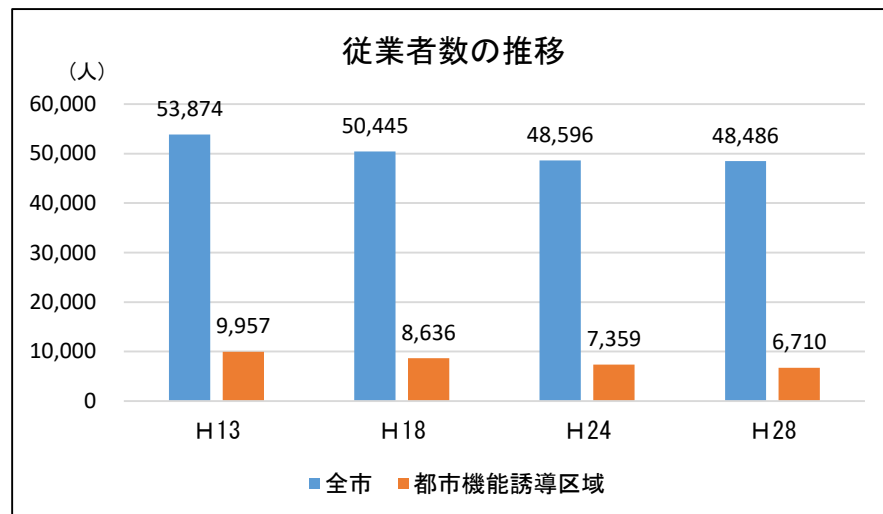
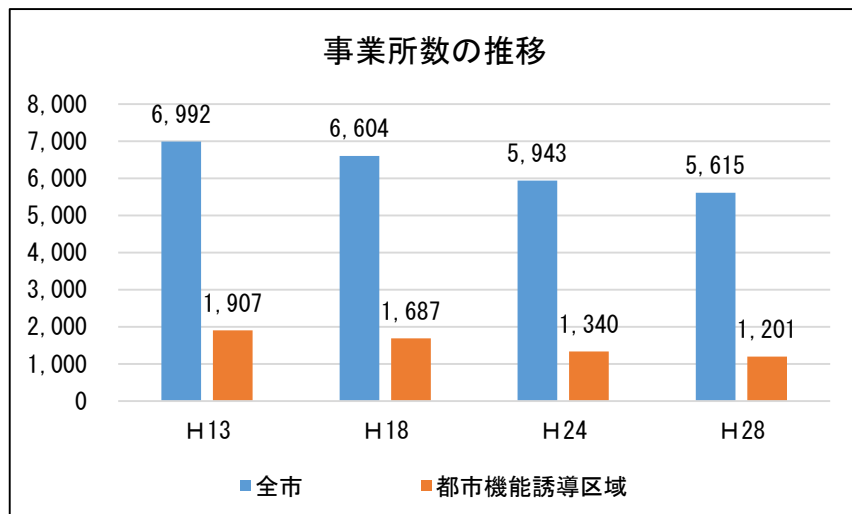


【資料】国勢調査（S55～H27）、住民基本台帳（R2）、社人研推計準拠（R7～R22）  
H17以前は、旧1市3町を合算した値

【資料】酒田市人口基礎データ（9月末時点）

# 1-3. 商業動態

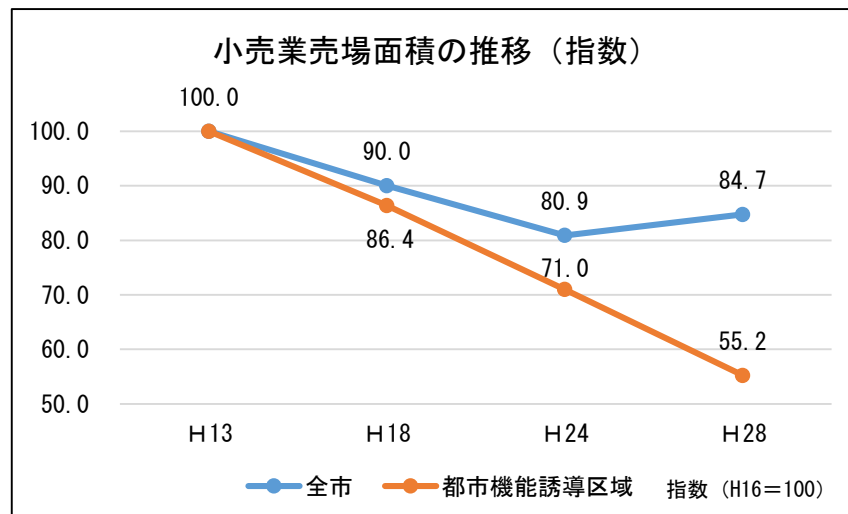
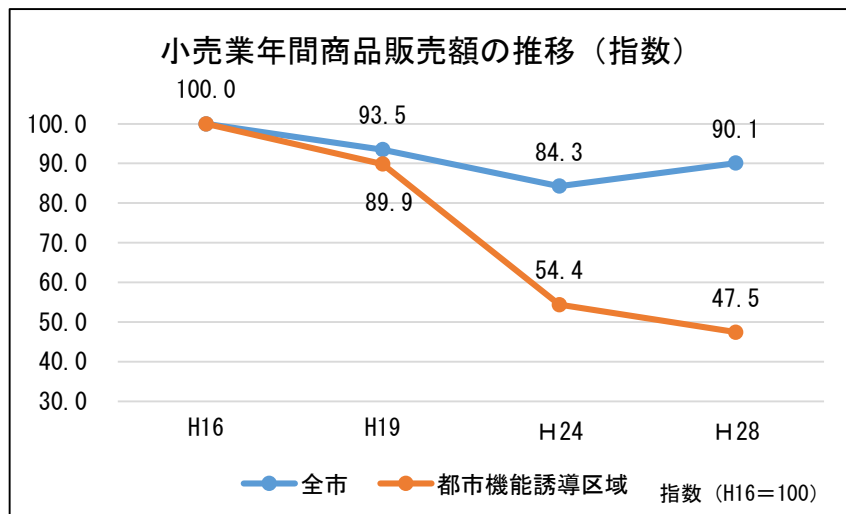
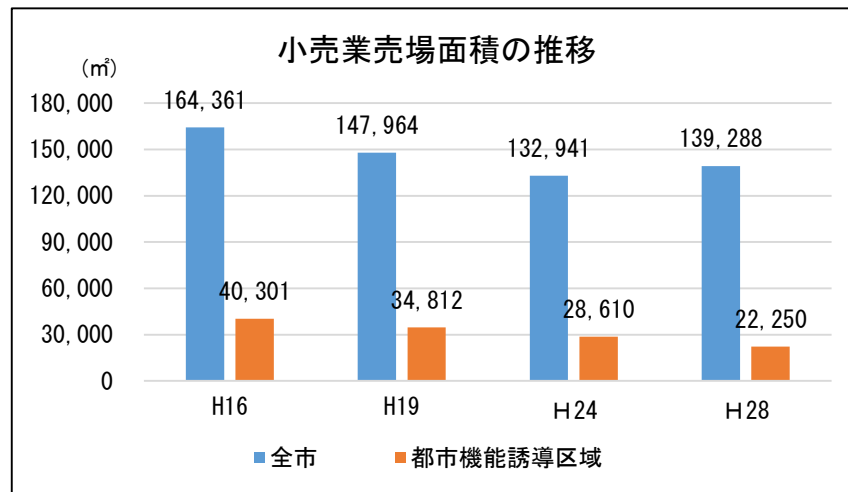
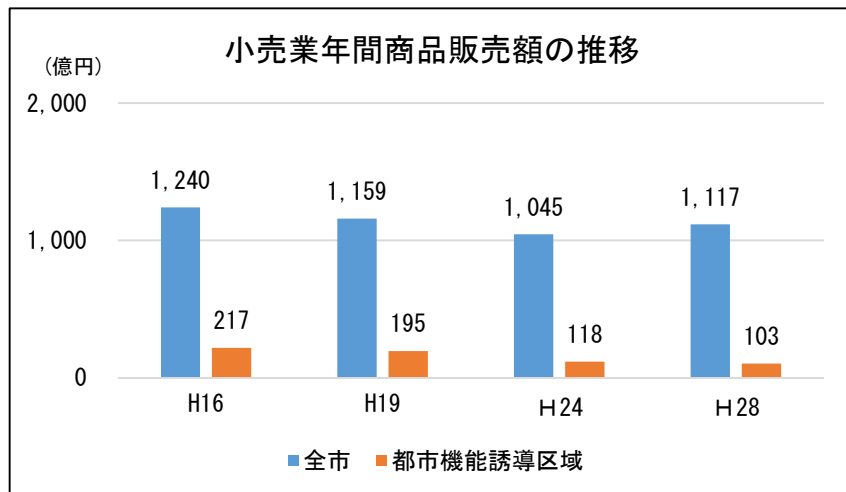
(1) 本市の事業所・従業者数は、ネット通販等の消費スタイルの変化等に伴い、年々減少傾向にある。特に中心市街地では、商業地の分散化や大型店の撤退等により、減少幅が拡大している。



【資料】平成13年・平成18年は事業所・企業統計調査報告書、平成24年・平成28年は経済センサス活動調査

# 1-3. 商業動態

(2) 本市の小売業年間商品販売額、小売業売場面積について、市全体では平成28年調査でともに増加に転じたものの、中心市街地では減少に歯止めがかからず、平成28年調査の小売業年間商品販売額では、平成16年調査の数値から約52%の減少となった。

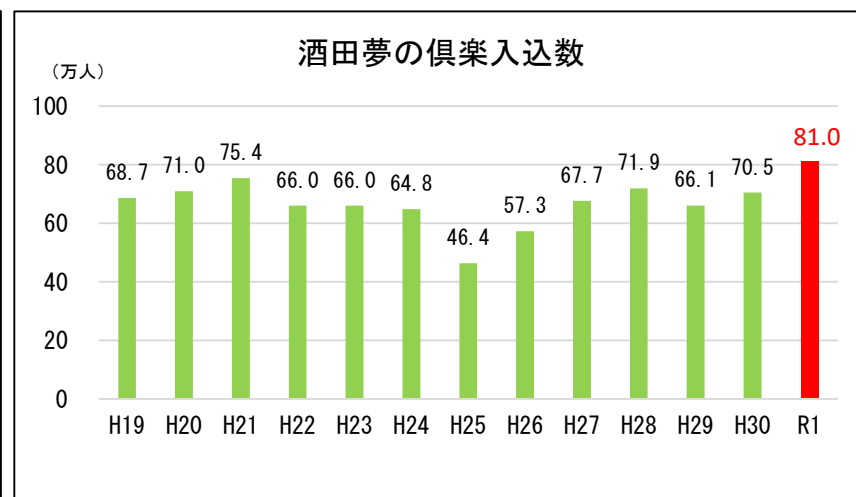
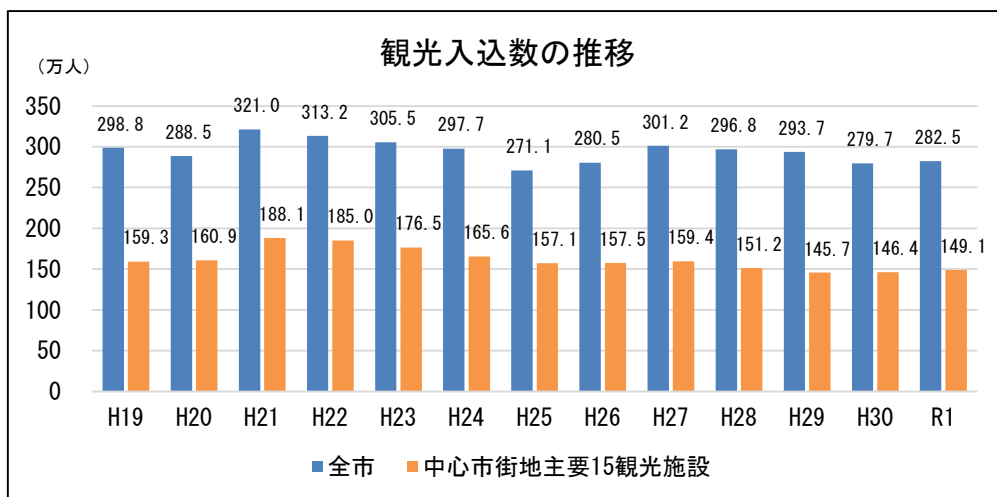


【資料】平成16年・平成19年は商業統計調査酒田市報告書、平成24年・平成28年は経済センサス活動調査

# 1-4. 観光資源及び観光入込数の状況

- (1) 市中心部には、北前船で栄えた港町文化や料亭、豪商の建物が数多く現存しており、京都を始め全国各地から伝わった雛人形、茶道具等の文化や美術品が現在まで受け継がれる等、様々な文化が融合した魅力的な街となっている。
- (2) 一方で、中心市街地の主要15観光施設の観光入込数は、映画おくりびとの公開をきっかけに、ロケ地として使用された旧割烹小幡（NKエージェント）が注目を集めた平成21年度をピークに横ばいで推移している。
- (3) このような中で、山居倉庫（酒田夢の倶楽）については、近年のNHK連続テレビ小説「おしん」再放送によるブーム再燃や、外国クルーズ船の寄港に伴う海外からの観光客が増加する等、観光資源としての価値が再認識される等、観光入込数は回復傾向※にあり、令和元年度は初めて80万人/年を突破し、中心市街地観光入込数の半数以上を占める等、本市を代表する観光資源となっている。

※令和2年度以降については、新型コロナウイルスによる旅行需要・インバウンド需要の減少等、観光への影響は長期にわたると予想される。



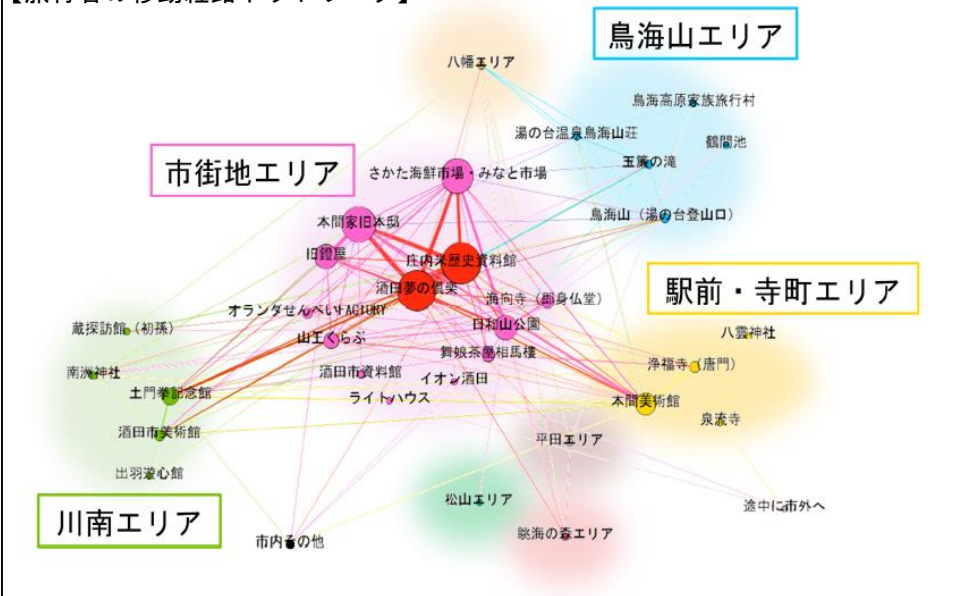
【資料】酒田市交流観光課集計（年度別）



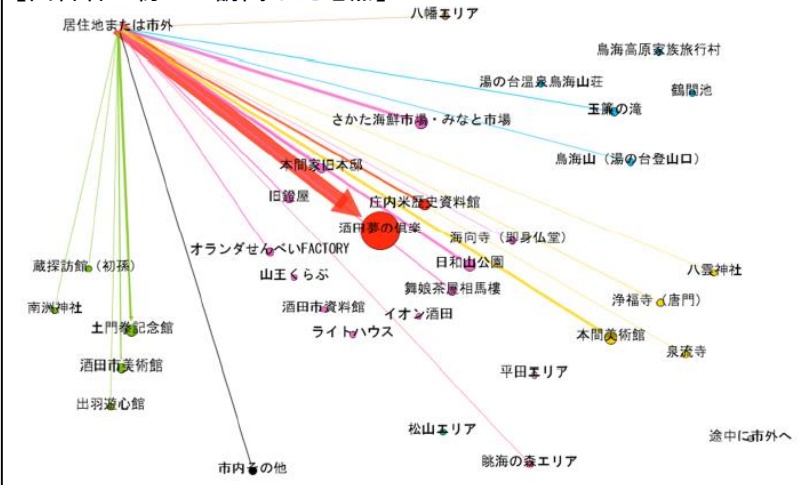
# 1-4. 観光資源及び観光入込数の状況

(4) 本市における旅行者の訪問傾向調査結果から、訪問数の多い観光地は市街地に集中しており、特に山居倉庫（酒田夢の倶楽、庄内米歴史資料館）への訪問が多い。また、旅行者が最初と最後に訪問した地点として、酒田夢の倶楽が最も多いことから、山居倉庫は市内旅行におけるハブ的役割を持つと考えられる。

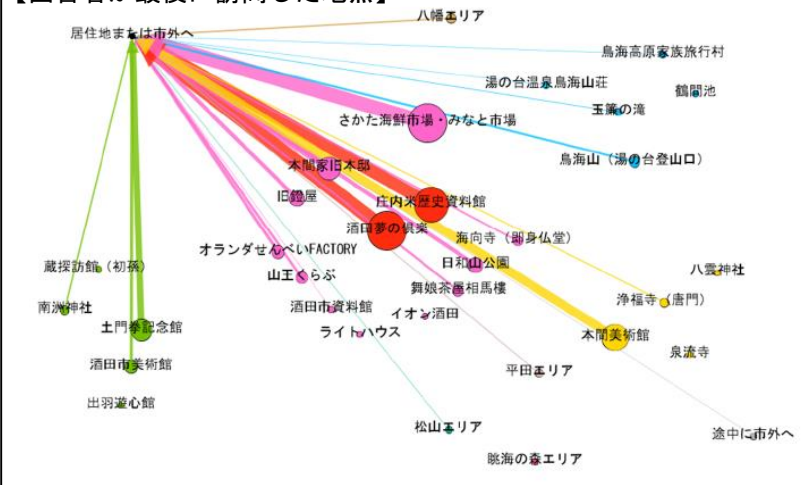
【旅行者の移動経路ネットワーク】



【回答者が最初に訪問した地点】



【回答者が最後に訪問した地点】



【凡例】

- > ● > ● : 観光客が訪れた地点
  - > — > — : 2箇所の観光地の移動 (ほかの地点を経由しない)
- (各点の大きさ、各線の太さは、訪問者数、移動者数の人数に比例する)

出典：令和元年度酒田市観光に関する調査研究（東北公益文科大学）

# 1-5. 山居倉庫の史跡指定について

## (1) 山居倉庫について

山居倉庫は、明治26年（1893年）、酒田米穀取引所の附属倉庫として建設され、庄内米を保管・取引した大規模な施設である。米が自由取引されていた米券倉庫時代から食糧管理制度下の時代を経て、建築後120年以上も現役使用の倉庫が現存しており、近現代の米穀流通の歴史を知る上で重要な文化財である。

創建時の倉庫6棟を含む大正5年までに建築された12棟の倉庫、事務所棟、東宮殿下行啓記念研究室、板倉、三居稻荷神社、倉庫西側のケヤキ並木が現存している。

## (2) 史跡指定までの経過

山居倉庫の歴史的価値、変遷や特徴等について調査するため、平成30年度に史跡指定に向けた調査委員会を設置し、文献調査、大学教授を招聘しての現地調査等を行ってきた。調査委員会の報告等を踏まえ、令和2年11月、国の文化審議会における史跡指定の答申、令和3年3月の官報告示を経て、本市で4件目、明治以降の建築物としては初の国指定史跡となる予定である。

## (3) 史跡指定後の取組み

### ①保存活用計画策定

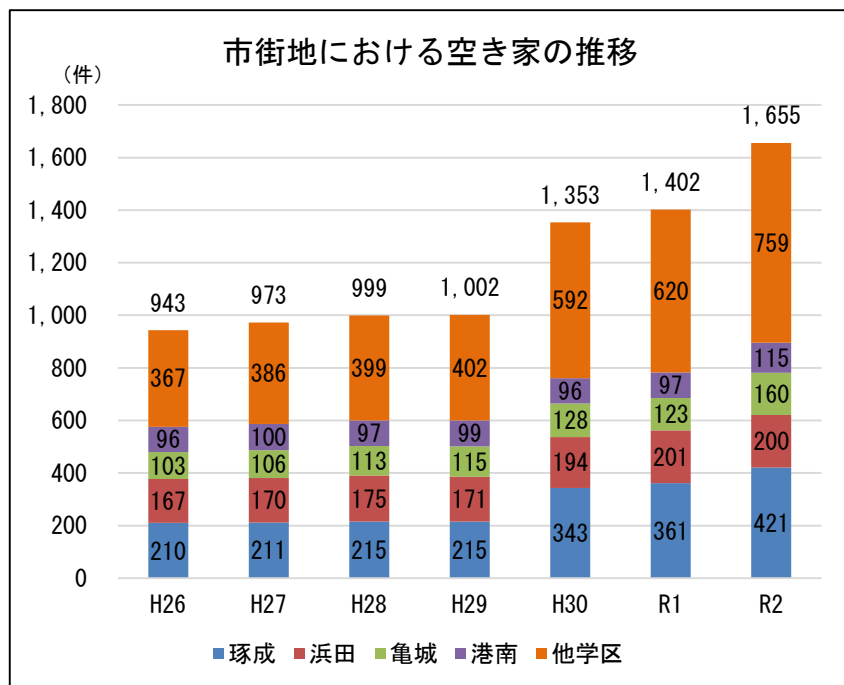
- ・史跡の本質的な価値と構成要素を明確化するとともに、それらを適切に保存活用していくための基本方針、方法、現状変更等の取扱基準の策定等を目的として保存活用計画を策定する。

### ②山居倉庫の取得と活用

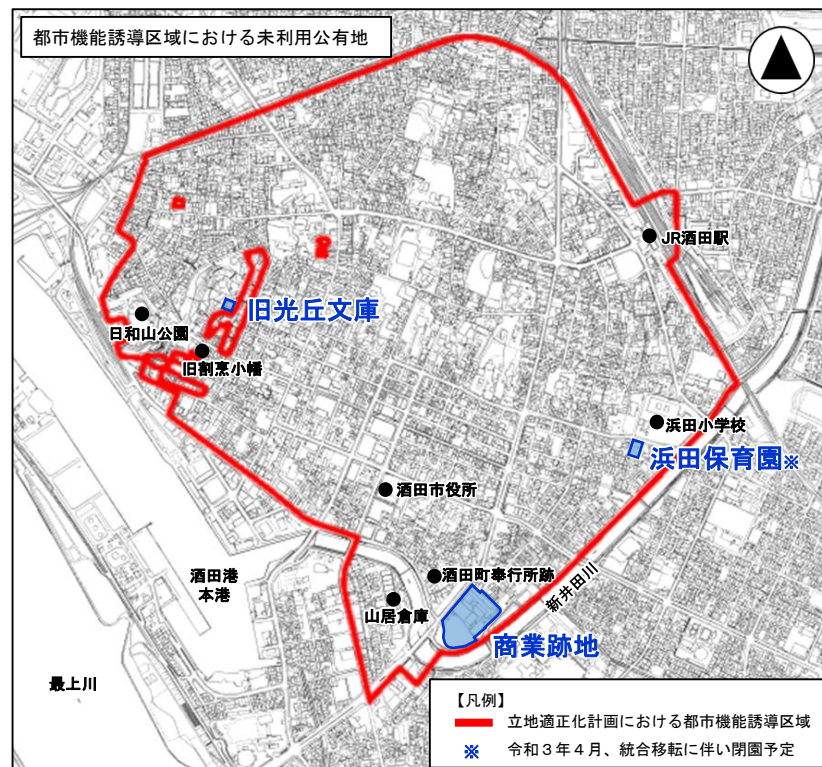
- ・山居倉庫が紡いできた歴史を後世に伝えていくため、倉庫機能が廃止される令和4年度末以降に、市が取得した上で、観光客や市民にとって、より魅力的な場所となるような活用策を検討していく。

# 1-6. 市街地の低未利用地の状況

- (1) 市街地における空き家の発生件数は増加傾向にある。
- (2) このような中、空き家等については、令和3年3月策定の酒田市空家対策計画に基づき、従来からの適正管理に向けた啓発・PR等に加え、令和3年度からは空き家の解体費に助成を行う等、支援拡充を図るとともに、公有財産については酒田市公共施設適正化実施方針に基づき、公共施設の統廃合や新設の抑制、貸付、解体等、施設管理・運営の継続的な見直しにより、公共施設の適正化を図っている。
- (3) 市街地における公有の未利用地については、高校統廃合に伴い市が取得した酒田商業高校跡地（以下「商業跡地」という）が、広大な未利用地として存在しており、老朽化による危険性だけでなく地域経済の観点からも大きな機会損失につながっているため、有効活用を図る必要がある。



【資料】酒田市まちづくり推進課集計（6月時点）



# 1-7. 新型コロナウイルスによる影響

## (1) 新型コロナウイルスによる影響

- ①令和2年度の観光入込数は、酒田港まつり・甚句流しをはじめとする大型イベントが相次いで中止となったことも影響し、12月末までの累計で1,489,490人となっており、令和元年度12月末までの累計2,381,108人と比較し、約37%の減少となっている。<sup>※1</sup>
  
- ②「「新型コロナウイルス」の影響に関するアンケート調査（3回目）集計結果」<sup>※2</sup>では、経営への影響について、回答企業全体の73.5%で「影響が生じている」と回答した。業種別にみると、建設業では令和2年7月調査の72.9%から51.5%に改善したものの、飲食業、旅行・宿泊業では前回調査同様90%以上が「影響が生じている」と回答する等、依然として高止まりが続いている。また、売上が減少したと回答した企業は、前回調査の43.9%から48.7%に増加しており、ほぼ全ての業種で売上減少の影響が広がっている。
  
- ③令和2年4月から5月にかけての全都道府県を対象とした緊急事態宣言や、令和3年1月の11都府県<sup>※3</sup>を対象とした2回目の緊急事態宣言が出される等、感染拡大が続いており、経済活動の低迷が懸念されている。

※1 酒田市交流観光課集計

※2 酒田商工会議所・酒田ふれあい商工会・酒田市商工港湾課集計（令和2年12月調査実施、令和3年2月公表）

※3 令和3年3月15日時点、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県のみが対象

# 1-8. 中心市街地の課題と今後の方向性

## (1) 課題

- ①平成12年から21年間に渡り、中心市街地活性化に取り組んできており、一定の効果は見られたものの、各種データの状態を見る限り、中心市街地の活性化は道半ばである。今後は、これまで行政が中心となって取り組んできたハード整備に加え、ハードを活用したソフト事業の推進や、有効活用されていない公共空間を民間と協力して活用することで、中心市街地の活性化を図る必要がある。
- ②人口の減少は、消費や経済活動の低下をもたらすだけでなく、都市機能の維持・更新が困難となる等、都市として魅力低下を招く恐れがある。直ちに減少を止めることは困難であるが、減少の速度を緩やかにするとともに、観光客や移住者等を取込み、関係人口<sup>※</sup>の増加を図る必要がある。
- ③新型コロナウイルスの感染拡大は、観光、飲食業のみならず経済活動全般に影響を及ぼしており、感染拡大を防止しつつ、地域経済の早期回復を図る必要がある。

### ※ 関係人口

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉です。地方圏は、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面していますが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されています。（出典：総務省HP）

# 1-8. 中心市街地の課題と今後の方向性

## (2) 今後の方向性

- ①中心市街地の活性化を図るためには、これまで整備してきた施設や文化財、公有地を有効活用し、豊富な経営ノウハウを持つ民間と連携した公民連携によるまちづくりを推進する。
- ②直ちに人口の減少を止めることは困難であるが、減少の速度を抑えるため、観光客や移住者等を取込み、関係人口の増加を図るとともに、緩やかに居住の誘導を図る立地適正化計画を推進する。
- ③人・物の動きや経済活動が制限される中でも、新しい生活様式への対応や、アフターコロナを見据えた来街者の受入環境を整備することで、地域経済の早期回復を図る。

- ・ハード整備から都市経営を重視したまちづくりへシフト
  - ✓ 都市が抱える課題に対し、目指すまちの姿を共有し、実現に向けた多様な手法、取組みを実践
  - ✓ 民が「稼ぐ」環境を行政が整え、得られた税金等を基に持続可能なまちを運営
- ・補助金に頼らない事業スキーム
  - ✓ 公共空間を民間事業者が活用する視点、地域で資金が循環する仕組みを構築
  - ✓ 事業からの収益を、まちづくりへ投資する仕組みを構築

**「公」と「民」が連携し、中心市街地を活性化させるための新たな取組みを「商業跡地」で実践**

## 2. 商業跡地の概要と方針

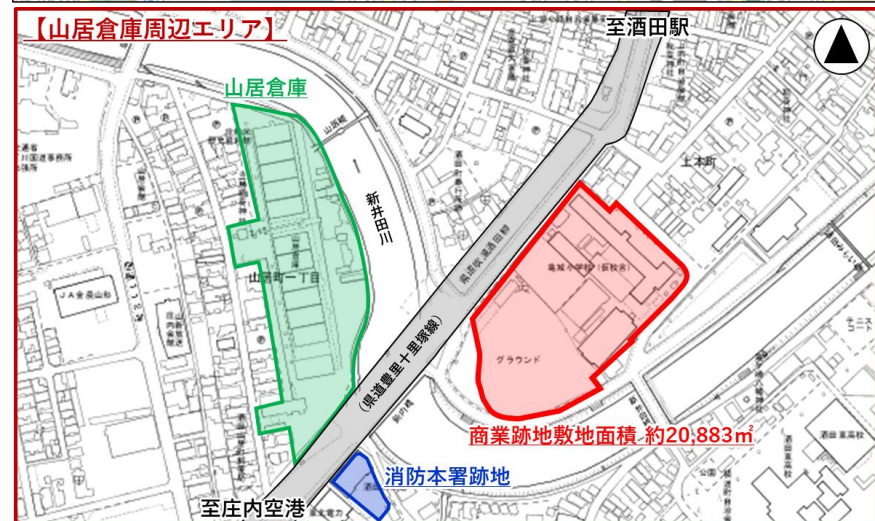
# 2-1. 商業跡地の概要

## (1) 商業跡地の概要

項目	概要
所在地	酒田市上本町8-4、8-56
敷地面積	約20,883㎡
用途地域	商業地域
防火地域	準防火地域
建ぺい率	80%
容積率	400%
その他	旧酒田商業高校校舎等については、令和3年度に市が解体工事を行う。

## (2) 商業跡地の変遷

年月	概要
明治40年5月	前身の酒田尋常高等小学校附設商業補修学校が開校
大正6年12月	現在地に新築移転
昭和37年3月	山形県立酒田商業高等学校に校名変更
平成24年4月	高校統廃合に伴い閉校 亀城小学校仮校舎、学童保育所として利用開始
平成24年8月	旧酒田市立中央高等学校との交換により、市が県から土地建物を取得
平成26年3月	亀城小学校仮校舎としての利用終了
平成29年3月	学童保育所としての利用終了
平成31年1月	老朽化等を理由に施設閉鎖





# 2-2. 商業跡地及び周辺の状況

## (1) 商業跡地

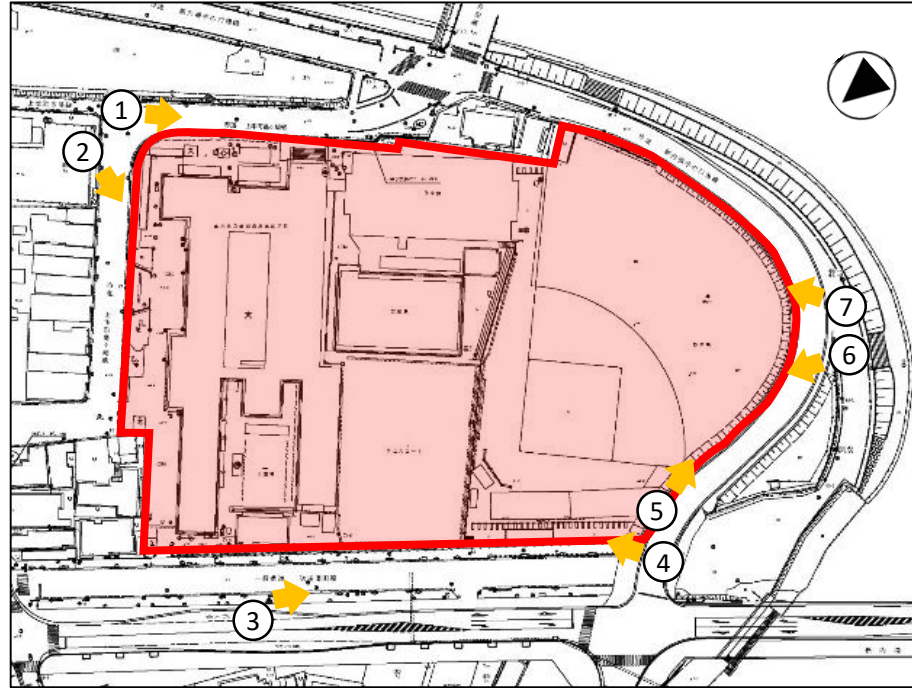
○商業跡地俯瞰



①東側市道



②北側市道



③西側県道



④南側グラウンド境界



⑦南側市道



⑥南側市道



⑤南側市道



# 2-2. 商業跡地及び周辺の状況

## (2) 山居倉庫

項目	概要
所在地	酒田市山居町一丁目1番8号
敷地面積	19,891.46㎡
構成施設	・米倉庫 ・庄内米歴史資料館 ・みどりの里山居館 ・酒田観光物産館「酒田夢の倶楽」
文化財区分	国指定文化財 史跡（予定）



○山居倉庫俯瞰



①山居倉庫ケヤキ並木



②みどりの里山居館



③山居倉庫正面駐車場



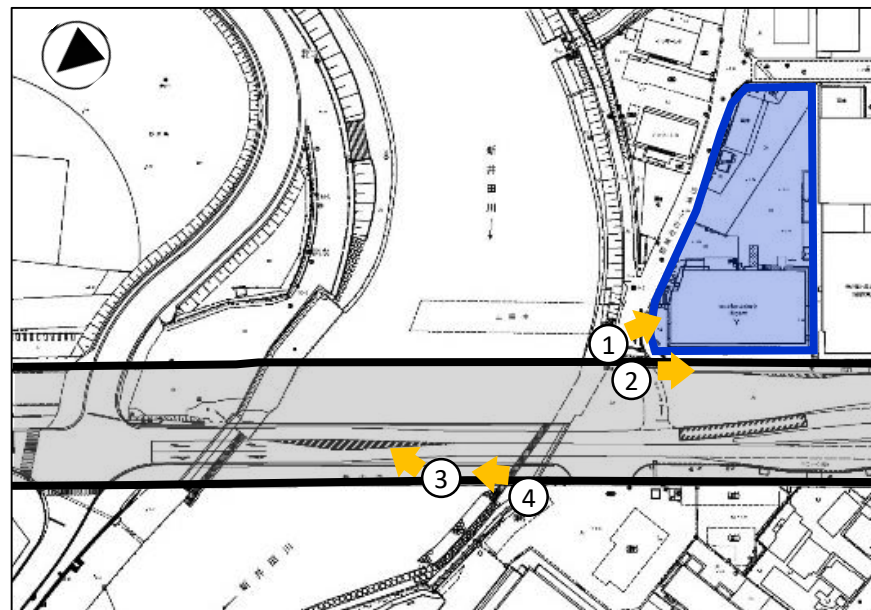
## 2-2. 商業跡地及び周辺の状況

### (3) 消防本署跡地

項目	概要
所在地	酒田市千石町一丁目1番4号
敷地面積	2,314.52㎡
将来像	新しい暮らし・生涯活躍ができる拠点
その他	令和3年1月、「居住機能」と「地域交流拠点機能」の導入に向けた事業者公募を実施

### (参考) 県道豊里十里塚線

項目	概要
路線・幅員	L=709m、W=33m
事業期間	平成9年12月17日～令和5年3月31日



①消防本署跡地



②消防本署跡地



③県道豊里十里塚線車道

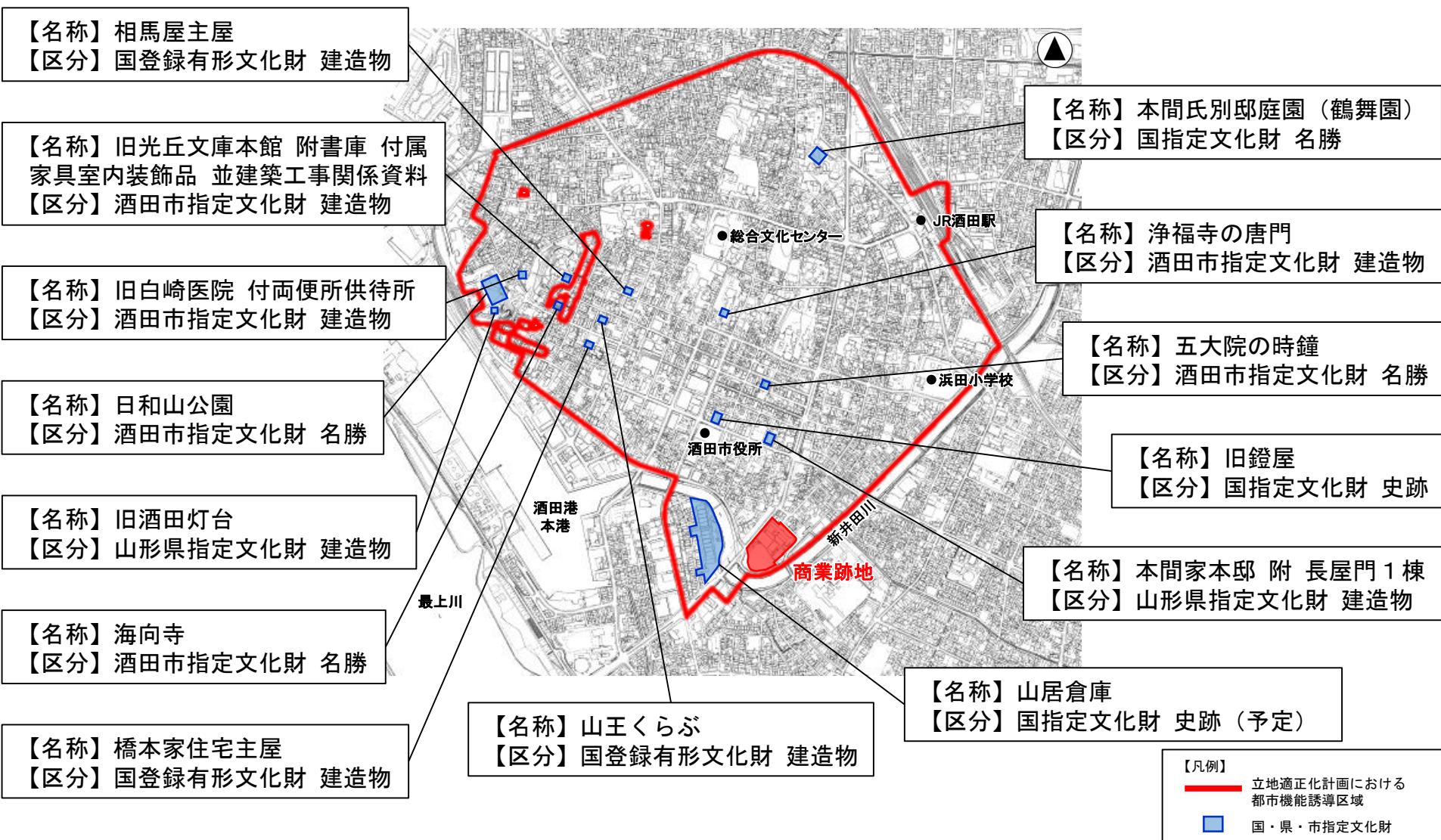


④県道豊里十里塚線歩道



## 2-3. 中心市街地の歴史資源

(1) 本市の中心市街地には、北前船の往来によって、港まちとして栄えた歴史を今に伝える歴史的・文化的資源が数多く存在する。



## 2-4. 上位計画・関連計画

### (1) 総合計画

#### 2-1 地域経済を牽引する商工業が元気なまち-【中心市街地の活性化、新たな産業やビジネスの創出】

##### ◆現状における課題

- ロードサイド型商業店舗の集積やインターネット通販等流通形態および消費行動の多様化、店舗経営者の高齢化、商品構成の固定化などにより、中町、駅前などの中心市街地商店街の賑わいが低下し、商店数、商品販売額が減少傾向にあります。

##### ◆今後の方向性と主な施策

- 商店街等と連携しながら中心市街地に人が集まる空間や仕組みをつくり、来街者の増加に取り組みます。

#### 3-2 「おもてなし」があふれ、交流でうるおうまち-【観光の振興】

##### ◆現状における課題

- 観光の目的、観光に求めるものが多様化しています。

##### ◆今後の方向性と主な施策

- 有名観光地とは異なるアプローチで「ウリ」や「ターゲット」を明確にし、誘客促進につなげ、地域に経済効果をもたらします。

#### 6-1 ひと・もの・情報が集い、魅力と賑わいを創出するまち-【中心市街地における都市機能の再生】

##### ◆現状における課題

- 旧酒田商業高校跡地や消防本署跡地を含む山居倉庫周辺は、市街地中心部の重要な場所に位置しているため、魅力ある都市機能としての活用が求められています。

##### ◆今後の方向性と主な施策

- 中心市街地において、民間、商業・観光振興施策等と連携し、相乗効果を狙った都市機能の再生・更新を図りエリア内の価値を高めて投資を呼び込み、魅力と賑わいを創出するまちづくりを目指します。

### (2) 【第2期】酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

#### IV. 施策の基本的方向と具体的な施策-基本目標IV:地域のつながりと安全・安心にあふれた暮らしやすいまち-

##### 1. 賑わいのある生活基盤づくりの推進-(1) 魅力と賑わいの創出

###### 【具体的な事業】-○都市機能の再生

- ・酒田商業高校跡地など山居倉庫周辺整備の実施

## 2-4. 上位計画・関連計画

### (3) 都市計画マスタープラン

#### 8. 都市づくりの方針-1) 中心市街地(中心拠点)-【拠点】-■酒田港本港・山居倉庫周辺地区(観光・交流拠点)

山居倉庫周辺地区は、歴史・観光資源や観光物産館、歴史資料館が集積する観光拠点であるとともに、ケヤキ並木や新井田川と一体となった酒田らしい景観を形成しています。これら酒田港本港地区と山居倉庫周辺地区の隣接した観光・交流拠点の機能を有効に活用して、連携を強化するとともに、にぎわい・親水機能を生み出す土地利用を進めます。また、商業高校跡地周辺は、山居倉庫に隣接し、空路・幹線道路からの市街地への玄関口ともいべき位置にあることから、周辺一体の魅力向上、観光交流機能向上に資する土地利用を進めます。

### (4) 立地適正化計画

#### 7-2都市機能を誘導するための施策-(3) 直接的な誘導施策-②誘導施策-市が保有する不動産の有効活用

- ・区域内に市が保有する不動産の有効活用を念頭に、民間事業者等による誘導施設の整備に対する市の遊休不動産の譲渡や賃料減免の支援策を検討します。(旧県立酒田商業高等学校等)

### (5) 酒田市景観計画

#### 11. 景観形成重点地域-山居倉庫周辺地区-(2) 良好な景観の形成のための方針

- ア 酒田を代表する歴史、観光資源である山居倉庫の景観を保全するとともに、周辺地区を山居倉庫と調和した個性的で魅力的なエリアとするために、地域住民、事業者、行政が協働で景観づくりを行います。
- イ 山居倉庫や本間家旧本邸、旧鍛屋などの歴史的な雰囲気と調和した、和風の落ち着きあるまちなみをつくります。
- ウ 特に、山居倉庫と新井田川対岸は、相互に見る場所、見られる対象となることから、その関係を大切に景観づくりを進めます。

### (6) 酒田市公共施設適正化実施方針、酒田市公共施設適正化アクションプラン

#### 5. 公共施設適正化実施方針-用途別の方針要旨

使用していない施設-転用や貸付など、有効活用を図っている施設を含め、積極的に、売却、譲渡、貸付、解体等の処分を進める。

#### I 酒田市公共施設適正化アクションプランについて-5 令和9年度(2027年度)までの公共施設適正化対象施設【109施設】

使用していない施設-旧商業高等学校

# 2-5. 商業跡地の基本理念・方針

## (1) 基本理念

「おうこ らいこん 往古来今」※

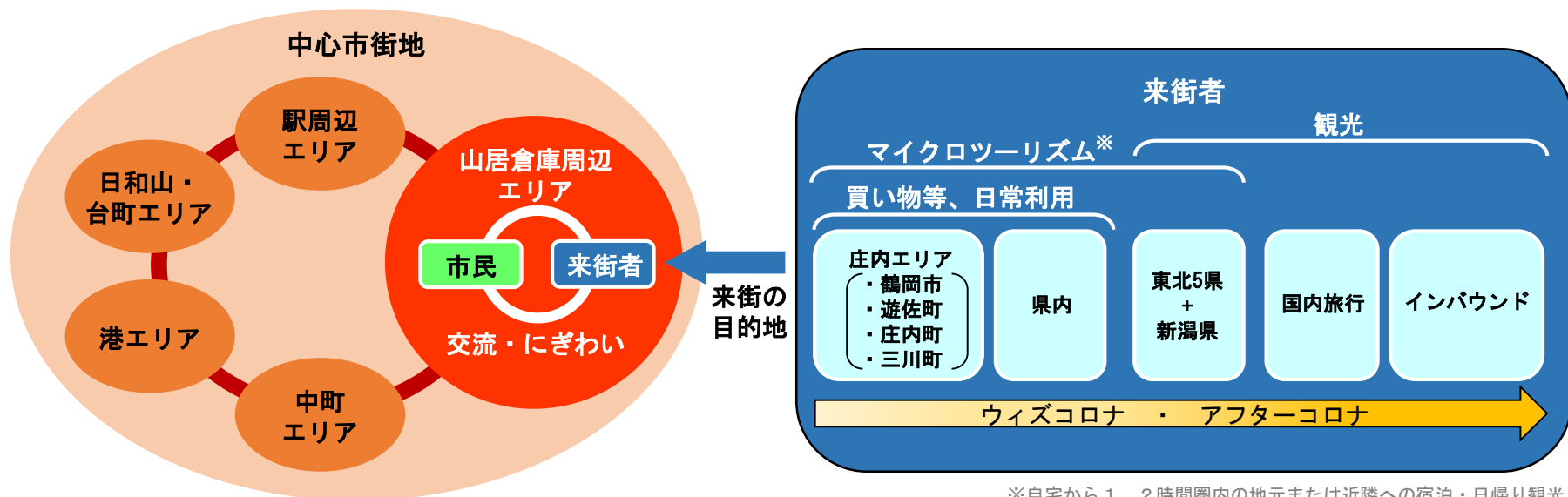
※ 過去から未来まで、綿々として続く時間の流れ

山居倉庫が中心として紡いできた酒田の歴史を、生活の一部として触れ、感じることができ、未来へつないでいくためのまちづくり。

幅広い世代が生涯活躍できるまちの実現を目指し、山居倉庫周辺エリアの価値を高める。

## (2) 基本方針

- ① 来街者にとっては、山居倉庫と連携した「にぎわいの拠点」、市民にとっては、生活利便性が向上する「日常生活の拠点」となり、山居倉庫周辺エリアに交流と日常的なにぎわいが生まれる環境を目指す。
- ② 庄内空港、幹線道路から中心市街地への玄関口としての立地を生かし、中心市街地への求心力、街なかへの誘導機能（回遊性）の強化を図る。



※自宅から1、2時間圏内の地元または近隣への宿泊・日帰り観光

### 3. 商業跡地への導入機能



## 3-1. 導入機能の概要

導入機能	概要
商業機能	○山居倉庫という歴史・観光資源を間近で感じることができ、庄内空港や幹線道路から中心市街地への玄関口というポテンシャルを生かした集客施設を導入する。 ○観光客だけでなく、市民が日常的に利用し、生活利便性が向上する機能を導入する。
産直機能	○山居倉庫の国史跡指定に伴い、山居倉庫及びみどりの里山居館の土地及び建物を市が取得する予定である。また、豊里十里塚線の4車線化に伴い、駐車場が手狭になっていることから、産直機能を商業跡地に移転する。 ○上記商業機能との連携を図り、利用者の利便性向上や農産物振興・地産地消を促進する。
駐車場	○導入機能に応じた駐車場を整備する。
その他 <sup>※1</sup>	○市内外を問わず、多様な世代が山居倉庫周辺エリアを訪れたいと思う魅力的な空間、サービスを提供できる機能。 ○DX <sup>※2</sup> 等、新たなビジネスモデルの構築、実践により、山居倉庫周辺エリアの活性化に寄与する機能。

### ※1 その他

居住機能については、消防本署跡地及び酒田駅前再開発において居住機能の導入を進めており、また空き家の更新支援等により、居住環境の改善を図ることから、商業跡地へは導入しない。

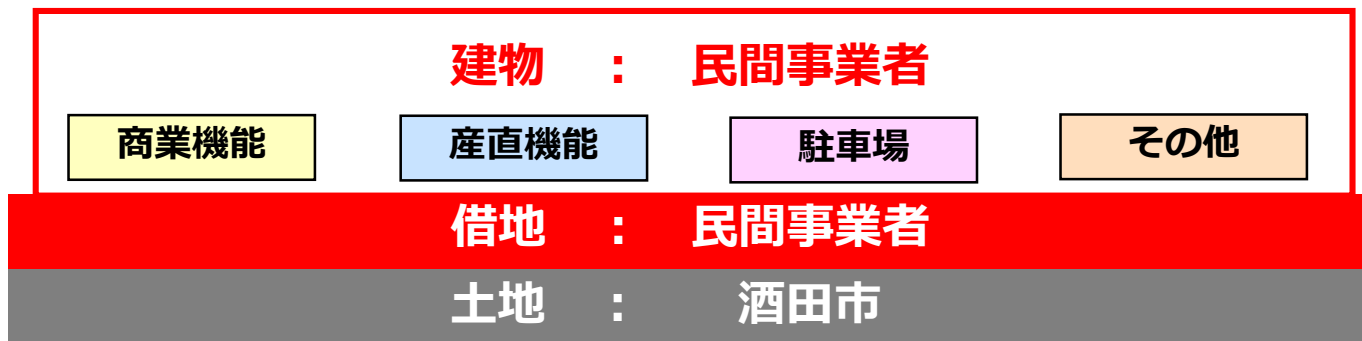
### ※2 DX（デジタル・トランスフォーメーション）

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

## 4. 事業スキームとスケジュール

# 4-1. 事業スキーム

(1) 商業跡地は、山居倉庫という観光拠点の対岸に位置し、中心市街地に残る一団の土地であることから、土地売却による転売や乱開発を抑止するため、事業用定期借地権を設定し、市が民間事業者に土地を貸し付ける手法を基本とする。



## 4-2. 事業スケジュール

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
酒田商業 高校跡地		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本構想公表</li> </ul> <p>旧酒田商業高校 校舎等解体工事</p>			
<p>事業者募集・選定・工事・供用開始</p>					
山居倉庫	<p>国史跡指定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 官報告示（予定）</li> </ul> <p>保存活用計画策定</p>		<p>公有化・整備計画策定</p>	
消防本 署跡地	<p>事業者 募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業者決定</li> </ul>			
都市計画道路 豊里十里塚線	<p>事業認可期間</p>				

# 5. 目指すまちの姿

## おうこらいこん 「往古来今」

山居倉庫が中心として紡いできた酒田の歴史を、生活の一部として触れ、感じることができ、未来へつないでいくためのまちづくり。幅広い世代が生涯活躍できるまちの実現を目指し、山居倉庫周辺エリアの価値を高める。

- ・酒田の歴史に関する情報を広く市内外に発信していく拠点としての検討
- ・民間事業のアイデア、活力を生かすことができ、地域経済の振興に資する活用を検討

### 山居倉庫の将来像

「観る」だけから、「触れて」・「感じて」もらえる拠点

豊里十里塚線 4車線化 = 交通網強化



歴史市街地 = 史跡の保存・活用

**にぎわい**  
史跡×物産×商業

新しい暮らし・集い = 住宅

**交流**  
市民×観光×新しい暮らし

山居倉庫との連携+にぎわいの創出  
= にぎわい拠点

- ・酒田の自然・歴史を生活の一部として感じることができ、中心市街地で暮らす拠点
- ・地域づくりへの参画、史跡・にぎわい拠点への労力の提供、幅広い世代間の交流
- ・参加する暮らしに集うまちを実感できる拠点

### 消防本署跡地の将来像

新しい暮らし・生涯活躍ができる拠点

- ・庄内空港、幹線道路からの玄関口としての機能を強化する整備
- ・隣接する山居倉庫との連携により、魅力を最大限発揮する機能を整備
- ・民間の活力を最大限発揮できる整備

### 商業高校跡地の将来像

空港・IC方面からの玄関口機能・にぎわい拠点

## 観光

観光消費を向上するまちづくりを推進する

## 資金

地域経済で循環するまち

## 人

住みたい・住み続けたいまち

## 歴史

これまでの歴史を生かし  
これからの歴史となるデザイン